

研究委員会
廃棄物埋立処理処分研究部会
平成14～16年度研究テーマ
循環型社会における最終処分のあり方

会員数(現在): 43名
ホームページ: 冊子の1頁を参照

研究の目的

- 21世紀は循環型社会作り
- 埋立地建設難を脱する展望がない。
- 埋立地は、循環型社会において必要ないという意識がある。
- 埋立地が正常に機能していくためには、循環型社会作りに対する、明確な展望・要求がなければならない。

活動の経過

- 2002.5: 春の研究シンポ; 「最終処分場新技術の開発・研究の動向」を開催
- 2002.11: 京都年会で集まり: 研究テーマの確認
- 2002.12: 研究グループ編成
- 2003.5: 春のシンポで集まり、研究計画報告
- 2003.10: 焼却部会と合同で「都市ごみにおける焼却処理と埋立処分のインターフェースを考える」を開催。
- 2003.10: 集まりを持って研究中間報告
- 2005以降の研究テーマ(案)「優れた埋立処分場の条件と表彰を考える」

研究の構成と研究グループ

B:世界の埋立
処分の現状と
将来トレンド

E:最終安定化
物埋立地

世界の動向

過去の
清算

G:埋立地修復
技術

A:最終処分残
渣の量・質の
予測

D:資源保管型
埋立地

C:重金属・有
機化学物質の
安定化

F:低負荷微生
物反応器型埋
立地

日本の将来

廃棄物学会・高松年会：
2004.11.19、小集会

埋立地の構造・機能を巡る最近 の議論

北海道大学大学院工学研究科
廃棄物資源工学講座
田中信壽

標準型：恒久土中保管型埋立地

- 土の中に入れておくと、掘り出さない限り環境に影響しない。
- しかし、このままでは、浸出水や埋立ガスの、ましてや**廃棄物の安定化に数百年掛かる。**

埋立地不要のコンセプト

- **埋立ごみゼロ**

徹底した減量処理とリサイクルにより埋立物量を減らす。

- **都市内管理付き有効利用**

大都市圏では埋立地は作れないので、道路下等に環境管理を伴って埋設して有効利用する。

- **長期保管**

将来の資源化技術に期待して保管しておく。埋立地型の保管場所については、現在の埋立地の法基準と違ったもので管理する必要がある。

地下水汚染防止型埋立地

- **容器構造強化型**

現在の日本の進み方、遮水工の強化、漏水検知

- **保持機能強化型**

埋立地内に重金属などの有害物質を保持したり、
分解する能力を持つ層を設ける。

時間促進型埋立地

廃止基準の設定で早く終わりたいと言う事業者の願望がある。住民から見て「埋立地の終わり」が見えてきた。

- **安定化促進**：早く安定化するために工夫する。
- **安定化物**：安定化したものを埋めるという考え方。
- **埋立物選択**：monofill型、分割埋立
- **土壌還元型**：もっと徹底して、早期に土に還るもののみを埋め立てる。有機物含有量の制限、有害物含有量の制限、プラの埋立禁止、必ず前処理。

保管・掘り出し型

- **備蓄保管型**：将来に有効利用できる時まで保管しておく。あるいは、将来使える形で保管しておく。梱包したプラの専用埋立地
- **中間処理型**：埋立地内で曝気や洗浄を行い、処理後掘り起こして有効利用する。埋立地的な構造を用いて中間処理的な考え方。

別の法基準に寄るべきでないか。

議論の方向

- 入れる物、入れ物、入れ方、立地の4つの観点から、総合的に考える必要。
- NIMBYの克服(安全・安心埋立地)につながるものであること
- 持続可能な埋立地:今のままでは埋立そのものが環境負荷になる。

思い切った転換、パラダイムシフトが必要。